



復刊第90号
題字吉岡弥生

新年度によせて

副会長 山崎 倫子

ビルの空にも街の並木にも春がや
つてきました。わが家の庭でも黒い
土を押しあげるように紫や黄色のク
ロッカスが咲き、水仙もまさに開こ
うとしています。白蓮の蕾も僅かに
ふくらみ雪柳はのびた枝一杯にかれ
んな小花をつけています。世の中の
移り変りとは何のかかわりもなく季
節は移り変って、自然は私達にやさ
しい気持をもたらしてくれました。

皆様にはご健勝にお越しのことと
お慶び申し上げます。昨年十月、青
山宮野ビルに移って以来すでに理事
会が数回開かれました。ようやく新
しい本部にも慣れて、これが我が家
という感じが深まりつつあります。
理事会にはやや手狭なきらいもあり
ますが、反ってお互いが身近に感じ
られ、快適に、家庭的な雰囲気なか
で会議を進めています。
名古屋での総会がつい先だつての

このように思われますがもう一年
が過ぎようとしているのに驚かされ
ます。その折のシンポジウムで私達
は三つのテーマをあげて皆様と話し
あいました。

お互い医師としての仕事の中で、患
者とその家族に対して、診療し、指
導し、教育してゆくことはもとより
ですが、さらに地域におけるリーダ
ーシップを強化してゆかなければな
らないことを話しあいました。また
女医会として何か具体的に社会に貢
献することはできないだろうか——
例えば「妊娠とタバコ」等について
ポスターを作って全国の会員の診療
所に掲示することができたら……と
いう提案もございました。

この度、佐藤千代子先生、森川み
どり先生と愛知県支部有志のご協力
で、あの時話題にのぼった妊娠にお
ける喫煙の害をイラストした素晴ら

しいポスターを作って下さいました。
先日の理事会でこのポスターが披露
されましたがぜひこれを全国の会員
のところでも利用していただけるよう
手配をお願いしているところです。
こうしてひとつのことでも実現に至
ったことは本当に嬉しいことです。
これからの社会的問題、特に女性
とかかわりのある問題を取り上げて、
教育、啓蒙運動を拡げてゆけないも
のでしょうか。

昨今見聞するところの青少年の非
行、その程度や真相は計り知れない
ものの、特に女性の性の軽視——既
婚婦人では年々人工妊娠中絶が減少
しているのに反し、未婚の若年層で
は増加の一途をたどっている現実、
目立って増えている女性アルコール
中毒者、さらにはひそかに慢延して
いるといわれる覚醒剤常用者、その
結果と思われる残酷かつ不条理な発
作的犯罪等々、心の痛む問題です。
家庭、学校、社会の何処に責任があ
るのでしょうか。黙って見ているよ
り方法がないのでしょうか。

昨年アメリカ、ニューヨークでの
国際会議に出席した折に、ニューヨ
ーク市の中心から程遠くないホスピ
スを見学してきました。このホスピ
スは予後六カ月以内と診断された末
期癌患者で、一切の延命処置を拒否
したものに限り入所できるという制
限があり、経口的鎮痛剤、眠剤、坐
薬、酸素以外の医療行為は一切行わ
ず、人間の尊厳をもって残された人
生をおくり、最後を迎えるために入

目次

新年度によせて……………	山崎 倫子…………… 1
各部の報告……………	
反省……………	久保田くら…………… 2
庶務を担当して……………	松岡 宏子…………… 3
「会費をお願いいたします」……………	佐藤千代子…………… 3
会計を担当して……………	守安 素女…………… 4
事業部の三年間を顧みて……………	稲葉 幸子…………… 4
事業部を顧みて……………	丸山 美実…………… 5
学術部三カ年の道……………	小俣喜久子…………… 5
広報部を顧みて……………	野沢 良美…………… 6
広報部の三年間……………	八木 貞子…………… 6
渉外部……………	竹内 静香…………… 7
支部展望 東北地方……………	
宮城だより……………	安倍 マサ…………… 8
青森だより……………	三上 ホフ…………… 8
評議員及び予備評議員……………	
理事会議事録(十二月・一月・二月)……………	10
会員動静……………	12
編集後記……………	12

所したり家庭へ帰ったりして care
(介護)を受けるところです。ホスピ
スは決して死ぬ場所ではなく、苦痛
が激しくて家庭では本人も家族も耐
えられない時、また家族を看護の精
神的、肉体的疲労から解放させるた
め一時的また長期にわたって入所す
ることができる施設です。また、患
者が死亡した後も一年間位は家庭を
訪問し残された家庭の精神的支えと

なることを目的としています。要す
るにホスピスとは、末期患者を看と
る特別施設及びプログラムをいうの
であって、care(治療)より care
(介護)に重点を置き、医師、看護婦、
ソーシャル・ワーカー、牧師などが
協力、一体となって患者との徹底し
たコミュニケーションを計り、患者
を死の不安や絶望から引上げ、安ら
かに最後を迎えることのできるよう

助けることを目的としているところ
です。紙数が足りませんので省略し
ますが、その Care (介護) の質の到
り尽くせりなことに深い感銘を
受けました。折しも、ビルの谷間の
中庭で、骨と皮ばかりにやせ細り、
腹水で腹だけがふくれあがった患者
が下ばきだけで長椅子に足を投げだ
し、表情の失われた青黒い顔をふせ
ながら日光浴をしていました。まさ
に死期の近いことは一目瞭然、一人
で何を考えているのだろうか、何と
も鬼気の迫る印象でした。

隣のフリーピン女医会に失望させ
ない気持で一杯です。テーマも「心
ある医療—医療における人間性」と
いいかえましようか。(一)医師患者関
係、(二)高齢者患者、(三)障害者—a身
体的、b精神的、c情緒的、(四)末期患者、
(五)産科及び新生児科において、とサ
ブテーマも細くあげております。
MEの医学、医療への貢献は素晴
しいものであり、どこまで進歩して
ゆくのか計り知れません。今や遺伝
子の操作にまで及び、はるかに私達
の理解をこえています。



この秋、十一月二十一日から二十
七日まで、マニラで開かれる第十八
回国際女医会議についてはすでに
お知らせした通りです。実はまだお申
し込みが非常に少なく、現在やっと三
十数人位です。一生懸命準備をして
おられるフリーピン女医会に申し訳
ない感じがしています。ベルリンの
時は二〇〇人余、バーミンガムの時
も一〇〇人以上が参加しました。近

医学の対称は単なる生物でも、臓
器でもなく知性と感情を持つ人間で
あります。今回の会議のテーマは非
常に抽象的ではありますが、今、世
界はどうなっているのだろうか、外
国の私達の仲間はどう考えているの
だろうか、と気楽な気持ちで参加
いただければと思っています。
マニラ会議へのお誘いを併せてご
案内申し上げます。

各部の報告

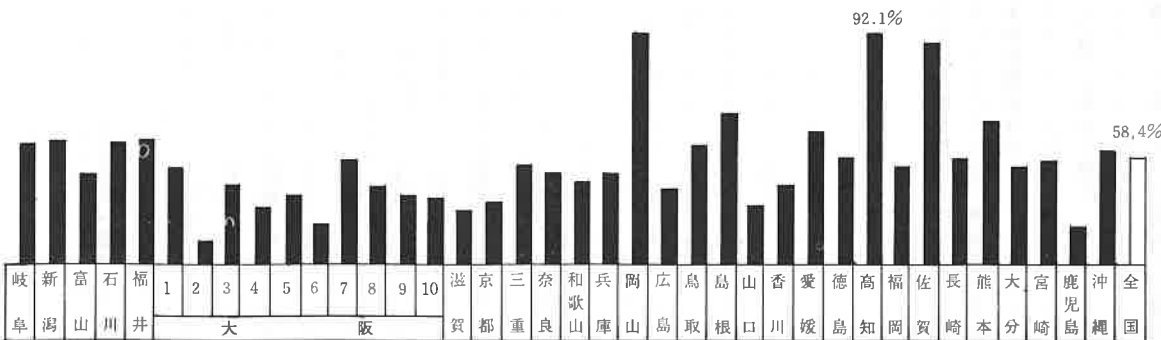
反省

庶務部 久保田くら

日本女医会の理事の役どころとし
て庶務を承わり、所定の任期ももう
直ぐ終ろうとしております。まず、
私は昨年東京女子医大を定年退職す
るに当り、生涯の大きな節目にさし
かかりましたので、庶務の皆さん、
取りわけ松岡常任理事に大層ご迷惑
をおかけいたしましたことをお詫び申
上げねばなりません。次にもう一つ
お詫びいたすことがございます。こ
れは前述のことと異なる意味を持つ
ことで、時間が過ぎて直ちに訂正で
きるという問題ではないものと考え
られます。
すなわち私自身の発言が極めて他の
方々を痛めつけ、ひどいものであると
すればこれまたお詫び申し上げねば
なりません。このような、ただだけ
ない私が何とか期間中を経過し得た
のは皆さんのおかげと存じており、
感謝で一ぱいでございます。ものい
いの悪いのは私は自分でもよく知っ
ているのでございます。と申します
のは、私の縁者にはいいたくないこと
をいう人ばかりでして、祖父の従弟か
ら、「俺はお世辞をいっているつもり
だが、相手に通じなく、かえって腹
をたてている。お前もどうもいい

いことをいっぶり悪くいうので心
配しているぞ。」と喋って叱ってくれ
たことが度々でした。しかし意識して
いうわけではなく、「これは一言いわ
ねばならぬ」とやむにやまらずにい
うのであって、いつでも真面目に、
そしてながい物に巻かれたい、特に
会の中の自分であって、自分のこと
は三の次、四の次、いや私の利は無
でありたいと常に希っているもので、
なかなか所謂「レデイ」らしくでき
ぬ私を自分で知りつつ、こまりつつ
すこしております。反省することの
み多く、振りかえってみては悔いて
ばかりおります。
なお、きめられた部処に対し、十
二分にその責を果し、他との程よく
かつきめ細かな連携を保ち、干渉がま
しくなく、スツキリと立ち得る理事
諸公が揃うならば理事会は整然たる
ものであり得ましようし、そう有り
たいと願わしく存じます。
「会議のその場で堂々たる論議を交
わし、会員の心を心としての理事会
であることが最高だ」という夢をも
つて臨んだ頭初の志を果し得たかど
うかとまたも我が身を省みている次
第でございます。

過去十年間(昭和四十六年四月、
五十六年三月)における会費平均納入率



庶務を担当して

庶務部 松岡 宏子

早いもので、五十四年五月に京王プラザホテルで、総会を開催してから三年が経ちました。今年もまた京王プラザで、定時総会を五月に開催することになっています。役員改選という全会員にとって大切なことがあるからです。しかも定款施行規則が改正されて(昭和五十六年五月)から、はじめての役員改選で、悉くくすみますようにと、心から願っております。それについても、定款施行規則に基いて、予備評議員を各支部に選出していただくように、本部からお願いいたしました。八十支部中、三十六支部のみお返事をいただきました。二月末日迄。なお未だに支部長の欠員の支部が六支部あります。本部から再三お願いいたします。お返事をいただけないので、大変残念に存じます。

次に、本部職員の就業規則をまとめました。これは五十二年秋から起草したのですが、この程やっと完成し、職員も働きやすいように、また役員が代る度に戸惑うことのないようにと、一応の基本を作りました。この中で、週休二日制をとり入れま

した。原則として理事会の行われる第四土曜日を除いて、土曜日を休みにしました。(第四土曜日は午前十時から午後六時迄勤務)。だんだん週休二日制が世間でとりいれられてきているからです。会員の方には、少しご迷惑をおかけすると思いますが、土・日には、事務所用のためのお電話や、ご来館をご遠慮下さいませ。その他、一般の庶務の仕事としては、毎月の理事会の議事録、翌月の理事会の議題の整理、通知、総会の通知、会員が風水害等に遭遇された時の被害の把握、お見舞、会員の動静、名簿作成等々、いろいろことまかにありますが、幸い、本部職員が、よく気がついて、よく働いてくれますので、大過なく、無事三年を過ぎました。事務職員に大いに感謝しております。

会費納入はこの三年間の平均は六十三%です。女医会は会費で運営されておりますから、何とぞ、皆様のご協力を心からお願いいたします。魅力ある会にしたいとよくいわれますが、会員が全国各地で大切な地域

医療で活躍しておられることなどで、全体を一つに纏めることは、いろいろむずかしいことがあると思います。が、今後とも私達に課せられた大きな宿題だと思えます。

役員改選にあたり、とにかく、出席可能な方、使命感と責任をもつ

「会費をお願いいたします」

—会計担当三年間—

会計部 佐藤千代子

会計を担当してあつという間に三年の任期が終ろうとしています。思えば会計とは私にとって思いがけない職務でございました。

生れてこの方自身の経理は総てドンブリ勘定で打過し、残りの人生も入るに任せ出るを制せずで完うするだろう予測でございました。しかし

昨今の医業経営はとみに厳しさを増しその対応への自信もありません。大切な会の経理が果して……という不安で、「会计学入門」などという本を早速買ったスタートでありました。

当然のことながら、会は会員の方々からの貴重な会費で運営いたす以上、会計担当としては一円もおろそかに出来ない緊張の三年間でございました。

会計部にはもう九年も会計担当の

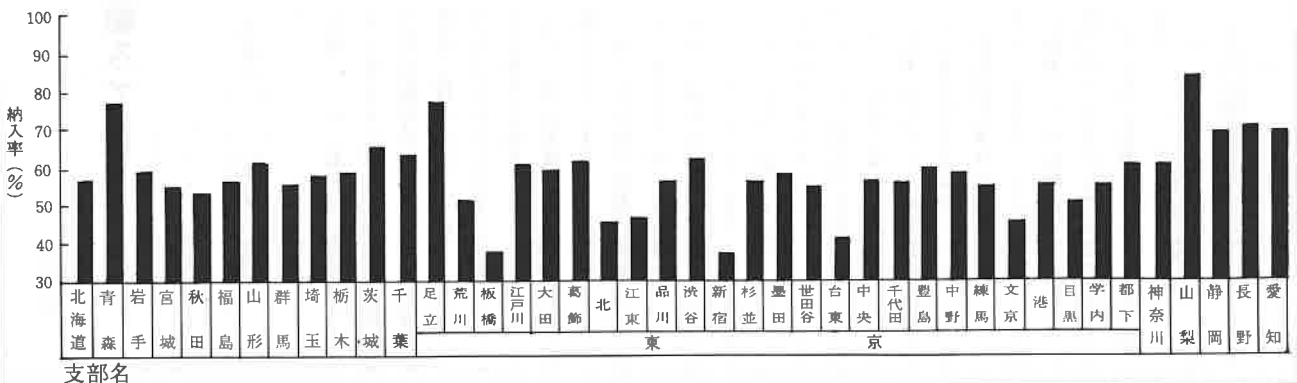
て仕事を下さる方、そして若い方が役員になられて、ご協力いただきたいと思えます。

この三年間、会員の皆様のご支援と、本部職員の協力によりまして、なんとか責任を果たすことができました。本当にありがとうございました。

ベテラン守安先生がお出になり、すべてに教えられること許りでした。また名古屋の森川先生、四国は逢高松からご出席の蓮井先生、神奈川の川口先生お三方の大所高所からのご指示を得て勉強出来たことを感謝するのみです。一見、無味乾燥と思われる会計部は会の運営に閑し自動的な面のみでなく、他動的な要素(金銭的にも人間的にも)を常に提案しなければならぬ難しいしかし面白い部門であることを再確認しました。

なお、緊縮財政の中で健全な運営のための事務職給与体系の見直しで減収になったのにも拘らず、会のために協力日々精勤の職員の方々に衷心より感謝する次第です。

三年間常に脳裏にあったのは会費の納入率でした。会費納入が会員と



して第一の義務であることは当然で
す。ただ、意識する、しないは別とし
て納入の過程に問題があると思いま
す。今後銀行の自動振込みも考えな
ければならない問題といえましょう。
ともあれ、会が社団法人である以
上ふさわしい事業が行われなければ
なりません。活発な事業はまた、会
の発展につながります。その第一と
して、優秀な研究者に対する助成事
業、全国から三十件を越す応募に対
し、四、五人の方にしか助成金を差
し上げることの出来ない苦衷、もう
少し会費の納入が良ければ……。単
純に計算すればあと五百人の方が忘
れず納入下さればその分四百万円、
二十人の女医を応援出来る！また夫
々の地域にあって地道な活動を続け
ていられる支部へも応援を！そして
女医として女性社会に対する積極的
な活動、例えば一つのスローガンを
決めてポスターを作り全会員の診察
室あるいは職場に掲示する。これは
何十万人かの女性に対するアピール
となり意義のある仕事だと思ふ。一
枚のポスターの実施に五十万円とし
ていろいろな啓蒙指導が出来るので
は……と夢は果しなく広がります。

ここに新米の会計が会費・会費と
思い暮しました三年間の一つのま
めとして、過去十年間の平均納入率
をグラフにしてみました。会員数と
か歴史的背景は除外して、ごらんに
なっていただけは幸せです。今さ
らながら高い煙突の支部に心からの
感謝と敬意を捧げます。

会計を担当して

会計部 守安 素女

日本女医学会の経理を福永先生と二
期、佐藤先生と一期、三期九年間担
当させていただきましたが、長いよ
うでもあつと思う間に過ぎ去つたよ
うに思われます。

会員の諸先生方の貴重な浄財を運
用させていただいておりますので、
冗費を押え有効適切に歳出が行われ
ますよう細心心掛けたつもりでござ
いましてが四十八年に二千五百円、
五十一年に四千五百円、五十五年に
八千円と会費の値上げをせざるを得
なくなりましては本当に申し訳
なく思っております。次年度に関し
ましては据置きのまま予算を組むこ
との出来る見通しも立ちました。こ
れもまた先生方のご協力の賜と厚く
お礼申し上げ次第でございます。

経理に関して全くの素人の私でし
たが、九年間本当によい勉強をさせ
ていただきました。顧問税理士の長
嶋先生にお教えいただいたり、また
事務職員の方々のご協力により、社団
法人として恥かしくない経理処置を
して行きたいものと一歩一歩努力し
て参りまして、お蔭様で五十五年に
つきまして監督官庁の厚生省からは

ば満点に近い評価をいただくことが
出来ました。しかし同じ者が長く担
当しておりますと、傾向的判断、ま
た狭一視野でしか判断出来なくなっ
ているかも知れませんし、この辺り
で別の角度から経理面の見直しをし
なければならぬ時期が来ているよ
うにも思われます。伝票整理や帳簿
記載等の職員の事務的な処理につ
きましては、明瞭に間違いなく処理し
てくれておりまして、監査の折には
何時も長嶋先生からおほめをいた
だいておりますので、安心してパト
ンタッチ出来る状態でございます。

最後に経理から会員の諸先生方に
切にお願い申し上げたいことは、社
団法人の会員である以上は会費納入
は義務であります。
会費納入が百分として計上出来る
予算を立てさせていただきたいと切
にお願い申し上げます。



事業部の三年間を顧みて

事業部 稲葉 幸子

寒のもどりともいふべきでしょう
か、急にみぞれと雪が入りみだれ冷
えこんで参りました。さて、事業部
の三年間をふり返つてとのタイトル
をいただき、誠に私にはふさわしく
ない部門をせおい一体何をなした
のかをまず考えました。

へき地助成、支部助成、公衆衛生、
年金、福祉などなど、重点を何処に
しぼるのか、従来のしきたりにそ
つてやるべきことを忠実に言うこと
はもちろん頭の中では分つてはいて
も、実際はグレンツケビートの余り
鮮明でないこの地に足をふみいれ、
何をいたしますものも与えられた問題
以外は仲々歩を進めることが出来ず、
考えることとなすことがちぐはぐで
会員の先生方には随分ご迷惑をおか
けしたという慙愧の思いが残る許り
でございます。(例えば福祉一つを取
つてみましても国内、国外もありま
すし)……

ただ、ただ今一つの思い出と申しま
せば昨年十一月十五日に行われまし
た日本女医学会発足六十五周年記念事
業として「バザー」を催し諸先生方、及
び各業界の方々の心暖まるご支援

を得、この一部を三十万円ずつ、N
HK厚生文化事業団国際障害者年及
び社会福祉法人東京小児療育病院に
寄付し得たことくらいで、これとい
つたこともなしえず三年間は風のよ
うな速さで過ぎてしまい、残念に思
う心と悔いを残しておりますのが実
情でございます。

今ごろになつて思いますことは会
員の先生方の中にはお年を召して、
あるいははねていらつしやる方もお
りではないかしら、このような先生方
がいらつしやつたならば早く気付いて
支部長の先生方に托し、一束のお花
でもいい、お慰めするべきではな
かつたかなどなど、思い出し気付か
ずに過ごしてしまつた貴重な三年間
が、重く肩の上ののしかかつてくる
ことなども多々でございます。もし
私が一会員でしたら思うことを自由
に振舞えたかも知れませんが一つの
枠の中ではみ出したことを起すこと
は考えねばなりませんし、思い出し
ますにつれてやり切れない気持ちで
一杯でございますが、明日への前進
を思い、気をとりなおしている今日
この頃でございます。

事業部を顧みて

事業部 丸山 芙美

一九八二年の年明けは予報通りに暖かな天候に恵まれ、今年の平和があたりかよ約束されたかのときでしたが、二月のホテルニュージャパンの大火災、つづいて羽田沖での日航機墜落という犠牲者多数の大惨事は旅行する者、利用者にとっては全くショッキングな出来ごとでした。もう二度と繰り返えさぬことを祈ります。

さて私等事業部は稲葉、川島、野口、斉藤、私の五名編成で三年間、地道ながら懸命に取り組んで来ました。何かとご批判、ご不満があったこととお詫び申し上げ、そのまゝめを記載します。

昭和五十四年担当した初年度はまず第一に前年度から継続した基本的事業計画に沿って見直しをすることでした。そこでへき地及び公衆衛生助成における対象者を広く見出す意向で全国各地の各支部長にその対象者依頼の募集をした。また十二月に帝劇で観劇の夕べを催し、五百余名の参加があり、会員の交流を深めた。不慣れな切符の捌きながら近在会員の多大な協力があつた。

昭和五十五年は永年会員のリスト作成。かつ次年度の事務所移転披露

六十五周年記念式典挙行に際して、これを盛り上げる意味を含めて同時にバザー開催の企画及び準備をする。昭和五十六年度十一月十五日行われた六十五周年式典、祝賀会、バザーは会員多数参加の下で盛会にかつ有意義に終了した。加えてバザー収益は新事務所と同じ渋谷区のNHK厚生事業団及び脳性麻痺児を守る会(龍知恵子先生会長)に三十万ずつ寄付が出来た。以上顧みて不十分なことではしたが、何かと今後の叩台となり得れば幸と考えます。

事業部の業務内容とは、今までの記録によりますれば助成事業、ルーへの収益事業、年金、で構成されており、他にその年度に対応したそれぞれの活動であったと判断します。前期に行われた女医の実態調査は立派な事業であったと担当委員の熱意と努力に感じ入っております。

今さらですが事業部を省みて、このさい事務所も新しくなつたことでもあり、原点にもどり、洗い直しをすることも日本女医会の発展に寄与するのではないかと考えます。私としての勝手な考えですが、事業部としての行動範囲を、例えば文化部、福祉部、共済部、購売部等に細分

してみることに……
最後に理事の先生方のお力添えとご厚情に対し、そして会員諸先生のお

学術部二カ年の道

学術部 小俣喜久子

長いようなまた短いような三年間の担当期間でございました。

学術部は他の部より大変遅れて発足しましたもので当初は無用の長物の感があつたことは否めないことですが、最近では各部同様に繁雑をきわめております。毎年恒例になつた研修会は会員の先生方のご協力でも進出するようになり、吉岡賞受賞者の発表とともに各方面の知識人の講演などもしていただくように企画してあります。しかし昨年は六十五周年記念を迎えたため研修会の講演は吉岡賞受賞者の方にだけご依頼し、藤井僑子先生の特別講演となつたことは既知のことと存じます。

また国際女医会記念事業の一端として学術助成をすることになつておりました。これを改め日本女医会学術奨励賞としてはじめて五十五年三月第一回の公募を全国の国立大学、公私医科大学及び研究機関における研究中の日本女医会会員を対象に行いました。初めての試みではありましたが全国国立大学及び公私医科大学計十八校から三十二名の応募者がありました。第二回五十六年度もま

暖かいご支援とご協力に對しまして心より感謝申し上げます。

この度、本部職員の就業規則を作成いたしました。会員諸姉に關係あるところを、紙面をもってお知らせいたしますので、ご諒承下さい。

庶務部からの お知らせ

この度、本部職員の就業規則を作成いたしました。会員諸姉に關係あるところを、紙面をもってお知らせいたしますので、ご諒承下さい。

始業時刻 午前九時

終業時刻 午後五時

休憩 正午より午後一時迄

休日 日曜、祝祭日

土曜日 (定例理事会日を除く)

年未年始 十二月二十九日

より一月四日迄

その他必要と認める臨時休日

この土曜日休日制は、週休二日制を取り入れたことです。現在、第四

土曜日の午後定例理事会を行つて

おりますので、定例理事会日は、職員全員出勤するように、ただし、この日のみ勤務時間を、午前十時から

午後六時迄といたしました。このため、会員には、少しご迷惑をおかけ

すること存じますが、本部へのお電話などは、土・日をさけて下さる

ようお願い申し上げます。

なお、夏期休暇は、交代でとるよう

にいたしましたので、支障は起こ

らないと存じます。

よろしくご協力の程、お願い申し上げます。

庶務部

広報部を顧みて

広報部 野沢 良美

満開の桜も心ない雨、風にすつかり花吹雪を散らしてしまいました。広報部を二期続けて担当させていただきました、只今感慨深いものがございます。最初の三年間は、ベテランの丸山先生と一緒させていただき、あつという間に過ぎてしまった様な気がいたします。しかしその後の三年間は、数々の試練、試行錯誤をくり返し、唯々無我夢中で会誌発行に取組み、非常に長かったように感じしております。苦しみが大きければそれだけ後のうれしさは一入で。会員のある先生より、会誌が大変よくなり、楽しみにしています」とのお手紙を事務局宛に頂戴したり、また研修会の特別講演につき報告させていただきますと、もっとくわしく知りたい、旨のお問合わせをいただくなど会員の皆様よりの反響に一喜一憂の状態でございます。翻って考えますとき、それ等は会員の先生方が会誌に対してお寄せくださる関心と拝察することが出来、大変うれしい励みともなつたのでございます。

今更申し上げるまでもなく、会誌は日本女医学会の機関紙として、定例の庶務、会計報告のほか、常任理事会、理事会議事録及び国の内外にお

けるその活動状況等の報告、さらにはその予定公示等々が重要な記事であり、その一つ一つの歩みが日本女医学会の歴史となり、それらを正確に、しかもできるだけ迅速に会員の先生方にご報告するという重大な役目を担っております。また一方会員のための開かれたページも相当もち得るわけでご支部よりの活動の状況、ご意見、郷土の名所旧跡のご紹介など、遠く離れた会員の先生方のご消息も、うかがい知ることができました。すなわち中央と地方との連結の強い絆となり日本女医学会会員の結束をなお一層高めることに精一杯取り組んでまいりました。

また広報部としては編集のみでなく、いわゆる広報活動も意味するものと理解いたしておりましたが、会誌各号の原稿依頼に始まり、発送し終るまでの一連の作業のくり返しの連続で、ほっとする間もなく原稿に追われ通しの毎日であつたように思われます。

郵送料の値上げ、印刷代の高騰、さらに偶数ページに仕上げねばならず、余裕ある空間をたつぷりととり読み易い美しいものにするなど、なかなか思うにまかせず残念な気がい

たします。また最初の三年間の時にも会誌を横書きにしてはとか、表紙をつけて小冊子にしてはとか、またとじ穴をあけるとともにファイルし保存するためにも表紙を用意したらとか、あれやこれやと工夫をこらしたことなど、なつかしく思い出されてまいります。

昭和五十五年五月、群馬県伊香保温泉での総会に際し、支部の先生方の熱心な準備の様子など皆様方におしらせしたいものと、取材という新企画を実行いたしました。休日を利用しての上野からの取材旅行も得るところ大であつたと思っております

広報部の三年間

会誌七十九号において、新広報部担当のご挨拶と決意を申し上げて早くも三年が過ぎました。

支部会員と本部との太いパイプ役をお約束し、ご協力と激励を得て漸くその任の一端を果したことを感謝申し上げます。会誌は日本女医学会の長い歴史を物語る大切な資料の一つでありまたそれによつて常に本部の活動をご理解いただき、また会員の声を執行部及び会員相互に送つてその交流をはかり、また他方非会員に対しては日本女医学会紹介の役目を

も果せるようにと、その責、重大な

が、遺憾ながら日々の診療、講義、研究、地域医師会の行事等に追われ時間的に思うにまかせず大変残念に思っております。

三年間をふりかえつてみますとき十二分にその責を果たし得なかつたことに対し慚愧の念でいっぱいですが三神先生を始め理事の諸先生方、会員の皆様方、事務所職員の方々の心暖まるお力添えにに対し、深く感謝申し上げます。

最後になりましたが広報部の川那部先生のご快方の一日も早からんことを祈念いたしまして、責を終らせていただきます。

広報部 八木 貞子

取組んでまいりました。その字の示すが如く、広くお報せする役目とは申すものの、いながらにして会誌に取組むのみならずまだまだなすべき仕事があつたと存じます。ああもしたい、こうもしたいと考えながらもいただいた原稿を整理し、校正し、漸く発送したと思えば次号の企画、原稿集めと全く原稿から開放される時もなく、ただただ一回毎の会誌を完成させることに追われて三年を過ぎましたことを残念に存じております。

会誌の内容においてはまず開いて楽しい会誌でありたい、また女医であることの品格と理性漂う教養誌でもありたいと理想を抱いておりますが、やや甘みに流れた気配を感じ企画に対し、もっと厳しい姿勢でありたいと念じつつ、その機を得ず、慚愧に堪えません。しかし一方においては各号ともに貴重な資料や紹介発表等いただき読者の中にはファイルに、保存しておられる先生もおいでのように伺っております。古い会誌に今一度目を通した時、今さらながらご多忙の中をご協力下さいましたご投稿は、流れ行く歳月の一コマ一コマの貴重な記録となり頭の下る思いがいたします。

今期私どもの新企画は会員の自由な発言の広場を大きく設けたことでしたが、これについては各地よりご協力いただき広報部も一生懸命お呼びかけしましたが意外に反響が少く、やや期待はずれの感があり、私どものPR不足かと反省しております。さてただ今は先年十一月十五日の六十五周年記念及び新事務所設定の式典、及び祝賀会開催を記念しての特集号編集に専念しております。多数の方々のご協力をいただいておりますのでさらに見応えのあるものになるよう、担当者一同鋭意努力しております。

最後にこの三年間、快くご協力ご指導賜りました大勢の先生方に改めて深甚の謝意を表します。

渉外部

「窓を開けて」と会誌に抱負を述べさせていただいてより三年間。どのような活動が、出来ましてしようか。

各年度の報告はすんでおりますので、今回は、心のこったことを記しますと、

- ・国際児童年に際して、日本ユニセフ協会へ百万円の寄付のお手伝い。
- ・インドシナ難民を助ける会に加盟し難民への援助金の寄付を毎年続行。
- ・国連婦人の十年中間年日本大会への参加。
- ・日中医学協会への入会。
- ・日中国交十周年を記念して婦人代表団歓迎のための募金の協力及び実行委員会に参加。
- ・国際障害者年に際しての協力。
- ・イギリスにおける国際女医学会第十七回国際会議への参加。その際に佐野アヤ子先生が国際女医学会副会長になられたこと。
- ・アメリカ女医学会はじめ、その他の外国よりのお客様をお迎えしての交流。

○昨年十一月十五日の創立六十五周年記念祝賀会のお手伝い。等々
少しずつ国際及び国内の交流の窓

渉外部 竹内 静香

が、ひらきつつあるように思えます。これからは、もっともつと各部屋の窓を開けていってほしいとお願いいたします。

渉外部というのにはある意味では、外にむかっつての会の顔の役目をするものではないでしょうか。

非才のため充分お役にたてませんでした。佐野アヤ子、鈴木文子、平瀬文子、マッキンストリ千枝子の各先生のご協力と友情にささえられ楽しくすごしてまいりました。有難うございました。

三神先生はじめ理事会の先生方、会員の先生方のご指導ご支援を深く感謝申し上げます。事務局の皆様にも大変お世話になり厚くお礼申し上げます。
日本女医学会のますますの発展を祈念して筆を擱きます。

昭和五十七年三月



社団法人 日本女医学会

第二十七回 定時総会のお知らせ

日時 昭和五十七年五月三十日(日) 午後一時
場所 京王プラザホテル

①一六〇 東京都新宿区西新宿二二二一
☎〇三三三四四一〇一一(代表)

なお、五月三十日午前十時より評議員会が同ホテルで行われます。

評議員ご欠席の場合は予備評議員(本部に届出のある方)がご出席下さい。

京王プラザホテルにお泊りの方は予約の際、日本女医学会員であることを申し出た場合は、宿泊料を割引いたすことになっております。

全国女子医学生連絡会議準備会よりのお知らせ

本年八月結成予定の全国女子医学生連絡会議の準備委員会より、日本女医学会に対し後援を依頼してまいりましたので、三月二十七日の理事会において世話人岡本ともみ氏(北大医学部五年生)より説明をきき、検討の結果後援団体として協力することになりました。後記の後援団体要請文をご覧の上、お知りあいの女子医学生で、この会に興味ある人は直接左記へお問合せ下さい。 広報

○後援団体要請文

桜の花も満開に近い今日この頃、先生方には日夜、診療・研究の第一線で活躍のことと思います。

薬大・名古屋市立大・香川医大・鹿児島大の女子医学生有志が、全国女子医学生連絡会議を結成するための準備会を設立し、規約・事務局体制等の原案づくり、全国の女子医学生への呼びかけ、通信の発行・郵送などの準備作業をすすめております。

私ども、準備会では、全国女子医学生連絡会議を、開かれた自由な交流の場、情報・意見交換の場としていきたい、と考えております。ですから、いかなる政党・宗教団体とも特定の関係を結ばず、あらゆる意見の女子医学生に参加してもらいたい、と思っております。

しかし、現在のところ知名度も低く、全国的に浸透しているとは言えないのが実情です。そこで、先生方の日本女医学会に後援団体になっていただき、82年8月の結成に向けて、励ましのアピールなどをいただけたら、と思うわけです。

どうか、前記のような事情をおくみおきくださいまして、後援していただけますように、準備会員一同、心からお願ひ申し上げます。

一九八二年三月二十七日

○連絡先

〒001 札幌市北区北十三条西四丁目
目エルクハイテンス六二六号
岡本ともみ方
全国女子医学生連絡会議準備会事務局

さて、先生方も体験なさっていらっしゃるように、医師・研究者という職業と家庭との両立はなかなか難しく、社会通念に根ざした女性ゆえのハンディキャップはまだまだ存在しているのが実情だと思われまます。私どもは、「家庭をもちながらも、医師・研究者を一生の仕事として働いてゆきたい」と真剣に考えている学生として、学生間に一般的に存在している情報不足・交流不足を非常に残念に思っております。

そこで、このたび北大・東北大・弘前大・秋田大・山形大・福島県立医大・東京医大・東京女子医大・千

支部展望 東北地方

宮城だより

宮城支部 安倍 マサ

仙台は今、朝は氷点下、日中は小雪が舞う日が続いています。私は去年の夏、軽い吐血をして直ちに厚生病院に入院、九月には東北大抗研付属病院外科で胃潰瘍の病名で胃の手術を受けて、十二月三十日に退院、現在静養中ですので原稿の依頼をお断りいたそうと思いましたが、暫くご無音に打過ぎましたので、これを機会に少し宮城県の女医学会の現状をお話しておきたいと思いいペンを取りました。

宮城県女医学会はもちろん日本女医学会宮城県支部が基幹になっております。以前から三水会という名称の月例会を持っており、当番の持廻り毎月、おいしい店を探して楽しい話らしいの夕べを持ってあります。時には東北大学の先生から、また女医学会の会員の先生から中広いお話をうかがって心の糧としております。今年「ヨガ」の実習、漢方の勉強会等何れも会員が講師で予定されております。

昭和五十五年十一月には久しぶりに三水会の主催でお祝の宴が催されました。それは高橋志津江先生(鶴

風会三回生)の叙勲祝賀会です。先生は永い間、仙台通信病院の耳鼻科部長としてのご功績に対して勲五等宝冠章が授与されました。ご主人様に早くに先立たれ、三人の息子さんを立派な社会人として送り出された方で、私どもは心から先生のご苦労をねぎらい、お祝の拍手を送りました。三水会の会員数は百名を越しておりますが、常時三水会にご出席の先生方は、夜分になるため主として仙台市内、また近郊からに限られており、二〇人前後です。医学部の増設に伴ない出身校もさまざまですが、同じ医療にたずさわっている関係上、横のつながりがお互いに非常に必要なものになり、日本女医学会員に限らず、宮城県内の女医さん方にはご希望があればどなたでも三水会員になれる現状です。

以上のような次第で宮城県内の女医さん方のつながりは、親睦を基盤として、女医学会員のために必要とあれば何時でも立上れる状態にあると思っております。

さて「東北女医の集い」について簡単に紹介いたします。



高橋志津江先生叙勲祝賀会

世界が日増しに狭くなっておる現今、狭い日本、そのほんの一部である東北地方がいつまでも遠い青森、遠い岩手であつてはお互いに孤立して、力を合わせねばならない時に、

青森だより

青森支部 三上 ホフ

春は桜まつり、五月はりんごの花まつり、夏はネブタ祭り、秋は紅葉まつり、冬は雪燈ろうまつりと四季を通じて弘前城を背景に観光まつりの盛んな弘前は何年か前に読売新聞

無力である許りでなく、同じ東北地方に住み、同じ仕事を持つ同志が親しく語り、自分の思っていることをなんでも話し合える場、そういう場をぜひ造り度いと以前から私どもは願っております。

宮城県の輪を東北に広げただけのこと、三水会のように持廻りであると思ひます。去年六月二十八日、第二回東北女医の集いが仙台ホテルで開かれました。講師は東北大学農学部教授木村修一先生でお話は「栄養のリズム」について大変ユニークな楽しいものでした。ちょうど長池先生のクラス会と重なり、合流いたしましたのでとても盛会でした。

こうした楽しい会を重ねることにより、いつの間にか女医同志の力を培うことになるかと私どもは信じ、お互いに貢献したいものと考えております。

が三上支部長宅にあります。会員は現在五十人、青森と八戸に支部長をおき、秋の総会には全県下より集り研修と懇親に力を注いでおります。一昨年は平敷淳子先生(群馬大助教授)を招いて浅虫温泉で総会を開き会員多数の参会の下に稔りある総会を開催しました。その折十三の砂山踊りを土地の芸者さんに踊っていただいて平敷先生の旅情をお慰めいたしましたことも今はなつかしい思い出となりました。

青森県は日本で一番長い海岸線をもっている県だけに漁具類の新鮮さは誇つてよいと思ひます。青森りんごは皆様もご承知と思ひますので喋喋いたしません、城下町弘前は藩政時代よりの和菓子の名店があり、茶道の盛んなところでこくのある和菓子が楽しめます。

観光としては十和田の自然美、素朴な古い時代の日本の良さを残す下北薬研温泉、弘前城をみて、津軽富士といわれる岩木山ろくを廻つて、奇岩に富んだ日本海の雄大な海岸美を眺めながら深浦までのドライブも一驚に値するものがあると思ひます。

秋の総会の他に八戸市では月一回、青森市では時々、弘前市では夏の懇親会、新年会と会合を開いて情報の交換、親睦につとめている現状でございます。

年々弘大医学部並びに他医学部の新卒の方々が入会して下さり、会の状況も新人を加えて活発でございます。

評議員及び予備評議員

昭和57年4月1日現在

Table with columns for Branch (支部), Name (氏名), Age (年齢), and Address (住所). It lists members of the Japanese Association of Women Physicians, including their names, ages, and residential addresses across various regions.

※選出届のない支部は、空欄になっております。届出あり次第会員動静で、お知らせいたします。

理事会議事録

日時 昭和五十六年十二月二十六日
場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

- 三神、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、川島、鈴木、平瀬、藤田、マッキンストリ
- 森川、山本、今野、添田

欠席(敬称略)

- 福永、尾中、大原、川那部、斉藤、佐野、清水、野口、野呂、蓮井、藤井、山口

庶務報告 松岡常任理事

11月28日 常任理事会を行う

12月8日 国連NGO役員会及び

国際人権デーに関する相談会に柳瀬副会長出席する

12月9日 二十五年永年会員表彰

者及び役員連統十年以上の表彰者で式典欠席者に、表彰状と記念品を発送する

12月10日 国際人権デーに関して、

国際連合協会局長と会談のため柳瀬副会長出席する

12月12日 青山宮野ビル管理組合

第二回総会を行う

その他

・森下元晴氏より厚生大臣、津島雄二氏より厚生政務次官就任の挨拶あり

・東京女子医科大学教授久保田く

ら氏退職、串田つゆ香氏後任の挨拶あり
・日本病院ボランティア協会より会長就任と事務局変更の通知あり

連絡事項

一、インドシナ難民を助ける会よりチャリティコンサート開催の協力依頼あり

会計報告 守安常任理事
十一月分別紙どおり 承認

議題

一、昭和五十七年総会について
(1)第二十七回定時総会のお知らせを一月号の会誌に掲載する

(2)選挙の告示と定款及び定款施行規則を昭和五十七年三月二日まで会員の手もとに届くよう発送する

(3)日時、場所について
日時 昭和五十七年五月三十日
場所 京王プラザホテル

評議員会 午前十時～十二時
選挙 午後一時～二時
総会 午後二時十分～四時
懇親会 午後五時

(4)選挙開票には、コンピューターを使用する

二、助成について
(1)学術研究助成

昭和五十六年度学術研究助成として国立大学より八校、公立大学より五校、私立大学より六校、計二十四名の応募者あり、審査の上四～五名に助成する

(2)へき地診療助成

東京女子医科大学無医地区研究に対し四十万円を助成する

(3)公衆衛生への助成
愛知支部に対し、十万円を助成する

三、昭和五十七年度事業計画及び予算案について
昭和五十七年二月理事会に各部署より提出された要望額を検討する

四、会議室貸出しについて
貸出し時間、使用上の注意事項、カギの処理方法、使用料等について内規を庶務部で検討作成のこと

五、職員就業規則について
職員からの要望もあり、一応庶務部で内規案を作成し会計部理事と検討し、理事会にはかる

六、その他
(1)定款一部変更につき評議員会開催について
厚生省の要請により二月の理事会の折に別に評議員会を開催する

(2)リックカーミシン株式会社との契約更新について
リックカーミシンで扱っている商品の販売契約を更新する

稿依頼について
(3)幼少児童健康教育振興財団より原稿依頼について
小児科の稲葉幸子先生と藤田親代先生に依頼

(4)中国婦人代表団歓迎委員会より募金依頼について
本日出席役員有志から二万二千元と一般会計渉外費より二万八千元合計五万円を募金する

(5)荒川綾先生よりの書簡について

社団法人として政治に関与しない

(6)国際女医学会報告
・クリスマスカードを会長ならびに連絡書記名で国際女医学会関係者に送る

・国際女医学会第十八回国際会議参加希望者現在十八名である

・旅行コースを阪急交通社と日本交通公社とが作成し、会誌に掲載する

同時通訳については、マニラ女医学会で手配中、費用は未定

・国際女医学会長レッドショー女史が、昭和五十七年九月韓国で開催される婦人評議会に出席のためその前後に訪日を希望している

・国際女医学会のマーク使用のハンドバックハンガーについて
愛知支部より国際女医学会へ寄付として五十個、日本女医学会として五十個、国際女医学会役員に土産として三十個を用意する

・国際女医学会費千八百名分を送金する

(7)バザー売り上げ金を寄付するについて
NHK厚生福祉事業団へ三十万円

東京小児療育病院へ三十万円

(8)本部会館移転準備関係会計報告及び創立六十五周年記念式典会計報告別紙どおりあり

(9)第三十六回国連総会報告会について
日時 昭和五十七年一月二十三日
場所 婦選会館

都内支部長及び近県支部長へ通知する

(10)前進座より観劇「ママチャマ」の案内
日本女医学会として昭和五十七年三月二十一日、昼の部、百枚手配
以上 久保田くら
松岡 宏子

常任理事会議事録

日時 昭和五十七年一月二十三日
場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

- 三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、八木

欠席(敬称略)

庶務報告 松岡常任理事
12月26日 常任理事会、理事会、忘年会を行う

NHK厚生文化事業団に三十万円寄付する 礼状あり

12月28日 一九八一年度国際女

会費千八百名分送金する

1月6日 リッカー株式会社と商

品特約販売に関して契約を更新する

1月16日 国際婦人年連絡会より

行政調査会との懇談会予備会に

柳瀬副会長出席する

1月20日 東京女子医科大学無医
地区研究会へ、へき地診療助成
金四十万円支払う 活動報告書
あり

その他

- (1) 厚生省医務局長田中明夫氏より退官、大谷藤郎氏より就任の挨拶状あり
- (2) 医療施設調査及び病院報告購入
- (3) 年賀状別紙あり

連絡事項

- 一、全国保険医団体連合会第二十回定期総会の案内
- 二、第二回国連軍縮特別総会に向けて婦人の行動について
- 三、国立婦人教育会館より公開講演会の案内
- 四、「この生命誰のもの」試写会の案内
- 五、日本イラク協会より大使婦人の招待あり

会計報告

佐藤常任理事
十二月分別紙どおり 承認
以上 久保田くら
松岡 宏子

お願い
今秋、会員名簿の作成を
予定しておりますので、住
所、電話番号、改姓等の変
更がございましたら、ハガ
キにて事務局までお知らせ
下さい。

理事会議事録

日時 昭和五十七年二月二十七日
場所 日本女医会 会議室
出席(敬称略)

- 三神、福永、柳瀬、山崎、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、尾中、川口、川島、齊藤、清水、鈴木、蓮井、藤井、藤田、森川、添田、山口、欠席(敬称略)

庶務報告

久保田常任理事
1月23日 常任理事会を行う
東京小児療育病院に三十万円寄
付する 感謝状あり
愛知支部へ公衆衛生への助成十
万円する

1月27日 日本イラク協会よりイ
ラク大使婦人の招待に柳瀬副会
長出席する
2月3日 日本女医会誌八十九号、
年金加入のおすすめパンフレッ
トを全会員に発送する

米林弁護士事務所訪問あり
2月11日 市川房枝先生逝去一周
年追悼会に柳瀬副会長出席する

2月15日 国連NGO国内婦人委
員会より婦人団体役員会に柳瀬
副会長出席する
2月17日 日本女医会定款施行規

則及び選挙告示全会員に発送する
支部長欠員支部へ評議員及び予
備評議員選出を依頼する

連絡事項

- 一、桜映画社より市川房枝先生の生涯の活動を語る記録映画「八十七歳の青春」に対し推薦してほしい申請書あり
- 二、婦人の行動を広げる会より「第三回国連軍縮特別総会に向けて婦人の行動を広げる会」の案内あり
- 三、東京都生活文化局より第三十四回婦人週間事業実施の協力依頼あり
- 四、日本婦人団体連合会より国際婦人デー中央大会の案内あり
- 五、日本イラク協会より「イラク婦人の日」および国際婦人デーを記念して招待状あり

会計報告

川口理事
一月分別紙どおり 承認
議 題

一、昭和五十七年度事業計画案及び
予算案について
(1)事業計画案
事業部
へき地診療への助成
公衆衛生、社会福祉への助成、
支部助成
年金
ルーペンタン
学術部
講演研修会
研究助成
吉岡弥生賞

広報部

機関紙の発行
創立六十五周年記念行事特集号
の発行
渉外部
国内及び国際交流
庶務部
役員選挙

渉外部

国内及び国際交流
役員選挙
会員名簿作成
(2)予算案
事業部
へき地診療への助成 六十万
公衆衛生 二十万
支部助成 五十万

学術部

講演研修費 八十万
研究助成費 四十万
広報部
機関紙 三百万
渉外部
渉外費 五十万
国際女医会費 百二十万
庶務部
俸給諸給諸手当 九百六十三万
法定福利費 八十万
厚生福利費 十万
会議費 百八十万
旅費交通費 百八十万
通信費 三百万
什器備品費 三十万
印刷費 百五十万
管理費 四十三万
弔慰費 三十万
顧問料 三十万
租税公課 四十五万

年金経費 三十万
雑費 五十万
光熱費 五十四万
営繕費 三十万
名簿引当金 百万
退職積立金 六十万
予備費 九十五万
支出合計 三千二百四十万

収入の部内訳

会費収入 千七百万
寄付金 十万
受取利息 九十万
年金手数料 二百五十万
名簿代 百万
前期繰り越 約千百万
収入合計 三千百五十万

- 役員会、部会出席のための会議費、旅費交通費を事業費から支出する
- 二、会議室、貸室規約について
- 別紙貸室規約案にもつき検討する
- 貸室受付簿を作成する

三、昭和五十七年総会について
役員選挙開票にコンピュータを使用する

四、昭和五十九年総会開催地について
新潟支部に依頼状を発送する

五、職員就業規則について
就業規則及び内規を決定し、実施する
昭和五十六年四月より適用

六、その他
(1)固定資産税及び都市計画税の減
免申請について
不特定多数という意味での行

事は、むずかしく適用を受け
ることも困難である

(2)浴風会へ寄付の件
一万円寄付する

(3)日本国際医学生交流連盟へ研究
助成について
五万円助成する

(4)国際女医学会連絡

・国際女医学会第十八回国際会議
十一月二十一日に出発予定に
なっているが、十一月二十一
日の行事に参加出来るよう出
発日を検討してみる

・五月三十日の総会時に旅行参
加者に旅行社からの説明を予
定している

・国際女医学会長レッドショー女
史訪日予定である
・ニュージーランドのドクター(オ
ークランド大学、学校保健専
門)今年五月十八日―二日
訪日希望あり

(5)国連N.G.O国内婦人委員会報告
国連軍縮特別総会に核兵器完
全禁止と軍縮を要請する運動
に当会も署名協力する

(6)前進座「ママちやま」観劇券購
入依頼をする

とき 昭和五十七年三月二十
一日 午前十一時三十分
ところ 三越ロイヤルシアター
観劇料 三千五百円

(7)支部長欠員支部へ評議員及び予
備評議員選出を依頼したが、現
在いまだ選出されていないので
三月末まで届出を待つこととする

(8)創立六十五周年記念特集号を
成中である

(9)学術研究助成について選考委員
会より五名(各三十万円)の発
表あり

田中富久子(神奈川支部)
ラットにおける下垂体前葉
ホルモン分泌リズムと睡眠
―覚醒リズムの相関関係に
ついて
石橋梯子(台東支部)

炎症局所に集積する食細胞
の長鎖脂肪酸による殺菌機
構に関する研究

竹内美恵子(品川支部)
特殊な方法によりニワトリ
肉腫ウイルスにより誘導さ
れる成熟マウス1次癌を用
いての癌の化学療法、免疫
化学療法の研究

泉二登志子(都下支部)
ヒト白血病性幹細胞に対す
る成熟顆粒球の影響について

川浪祥子(福岡支部)
胸腺内アセチルコリン受容
体蛋白質の分離証明と、その
重症筋無力症の発生におけ
る意義

(10)愛知支部で作成した「若い女性
に対する喫煙の害キャンペン」
のポスターを日本女医学会事業と
して認めてはどうかとの意見あ
り

以上 久保田くら
松岡 宏子

会員動静

入会会員(敬称略)

北海道支部 奥山悠子 山本朝子
岩手支部 新津純子
栃木支部 藤原成子
新宿支部 八木葉子
目黒支部 八木道子
神奈川支部 塩谷寿美恵 田中富
久子

愛知支部 森下秀子
奈良支部 辻 光子
大阪六支部 中沢貴子
大阪十支部 飯田さよみ
兵庫支部 田中千賀子
福岡支部 川浪祥子 水田祥代
長崎支部 遠山杏子
新卒入会会員(敬称略)

埼玉支部 五十嵐 令
新宿支部 青木仁美
都下支部 樺沢真理子
自然退会復活会員(敬称略)

北海道支部 桜井多美子
栃木支部 佐藤菊子
退会会員(敬称略)

北海道支部 木村美恵子
秋田支部 岩淵和子
宮城支部 加藤和子
福島支部 柳沼典子
千葉支部 加納千秋
足立支部 加藤満子
葛飾支部 渡辺登美
都下支部 新藤ケイ
神奈川支部 種元由美子 西山兼
子 林谷幸子 藤岡

美津子

山梨支部 小林ヒサミ
石川支部 角家丕子
大阪一支部 長田瑤子
大阪十支部 喜井貞子
京都支部 岩破順子 南部勢津子
和歌山支部 寒川シメ子 玉置政
子

広島支部 高橋はま 三宅チエコ
香川支部 旭 登美子
徳島支部 藤田陸子
熊本支部 米山英子

会員物故者(敬称略)
訃報に接し哀悼にたえず謹しんで
ご冥福をお祈りいたします。

洪谷支部 島津草子
福岡支部 福泉伊津子

編集後記

百花繚乱の春四月、私ども広報部
にとり、最後の会誌九十号を皆様に
お届けできますことを心よりうれ
しく存じております。

昭和五十四年五月、東京の京王
ラザホテルにおいての総会開催後、
早や三年が経とうとしております。
各部担当の先生方にとりましては、
長いようであり、またあつという間
の三年の任期であったと思われま
す。

今回は日本女医学会各部より三年間
をふりかえって、ご報告いただきま
した。各部を担当の先生方は、それぞ
れその部の任務を全うすることは、

運営の上からも最も大切なことは勿
論ですが、他部との密な連結により
なお一層円滑に進行してこられたこ
とと思われまます。それぞれ分担内容
は異にしても日本女医学会を愛し、そ
のために大変な努力をし、日本女医
会によりよい発展を心から願って
おられますことに変わりはないと固く信
じております。日進月歩の医学の進歩
と、医業経営の厳しさの日々増す今
日、日本女医学会も考えねばならない
ことが多々あると存じます。鋭意あ
ふれる日本女医学会の今後の発展に期
待するや大なるものがあります。

なお学術部における日本女医学会
術奨励賞として昭和五十五年度第一
回目の五名の受賞者がおられますが、
その一部の先生の研究経過報告書が
提出されておりますが、学術部とご
相談の上、全員をまとめて年度別に
発行することとし、今回は割愛させ
ていただきました。

六十五周年記念特集号もお陰様で
近日中発行できる運びとなりました。
今期最後の号を終るにあたり、諸先
生方および事務局の皆様のご協力に深
く感謝申し上げます。(広報部 野沢)

昭和五十七年四月二十日 印刷
昭和五十七年四月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 美
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷二
日一七 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
TEL (498)〇五七一
印刷所 東京都文京区本駒込
一七七一十五
株式会社 北斗社